

合格通信

今
月
の
名
言

まかぬ種子は生えぬと言うが、
我等は不幸の種子をまかず、
幸福の種子をまくように注意
すべきである。

武者小路 実篤
(小説家)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせいただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。



大菩薩峠

なんという文学的な響き。この名前を聞いただけで、この山に登りたくなりました。中里介山の大河小説の作品名でもあり、また映画化されているので、名前を知っている人は多いかと思います。

これも大学生時代の話です。相棒のN君に「大菩薩峠に登ってみたいか」と誘うと、二つ返事で「おお、行こうぜ」となり、行ってきました。1986年9月23日秋分の日のことです。当時N君はフォルクスワーゲンを所有しており、朝9時僕の当時の下宿(調布市多摩川)を出発し、甲州街道から青梅街道に入り、レトロな雰囲気のある青梅市街地を通過して、山梨方面へ。途中、絶景ポイント奥多摩湖を眼下に見下ろし(こんな大自然が東京にあるんだ)と感慨にふけりながら、さらに山道を登り続けると、突然車がガクガクし始め、フォルクスワーゲンなんとエンスト。しかも山中。・・・ボク「力ないねー」N君「力ないよ・・・」30分ほど車を休ませ、再出発。(この車この先大丈夫だろうか)と不安をかかえながらも、何とか大菩薩峠登山口に到着。そこから2時間半、途中休憩無しで登り、山頂近くに到着。山小屋兼売店があったので入ってみると有名人らしき人の色紙が。ボク「石井均ってだれだ？」N君「ラサール石井じゃねーのか」ボク「あいつどこ来たの」N君「だろーな」とかいう会話をしながら、外へ出て頂上へ向かうと濃霧発生、突風注意。ここから一望できるという「南アルプス山

脈」も「富士山」もまったく見えず。(昔の500円札の裏側の富士山はこの辺りから見たものということで大いに期待していた)山に登って天気が悪いと最悪です。

帰ってから調べたのですが、「石井均(いしいきん)」は俳優、喜劇役者で「ラサール石井」の本名は石井章雄でした。

